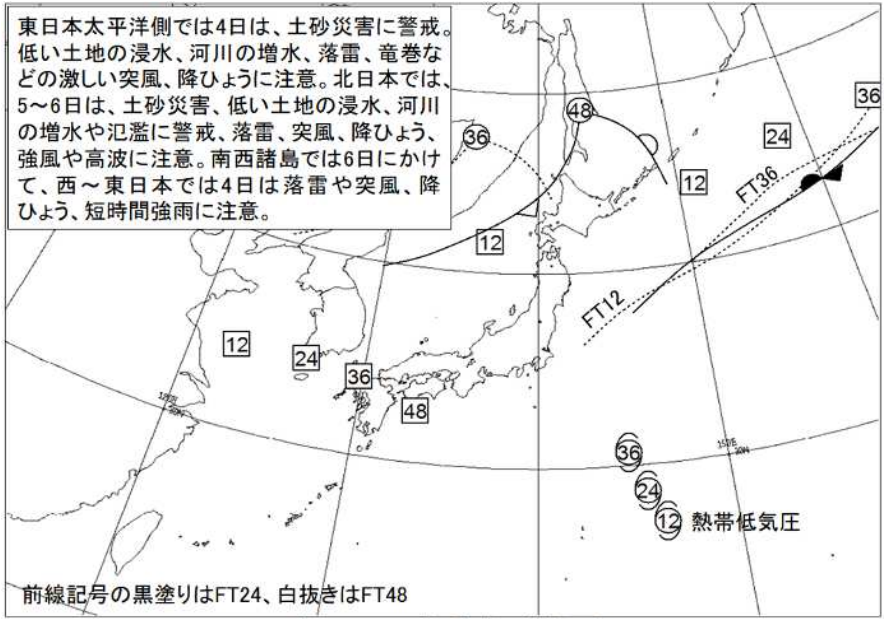


1. 実況上の着目点

- ① 500hPa 5820m 付近で-6°C以下の寒気を伴うトラフが本州付近を東進。
- ② 前線がアリューシヤンの南から伊豆諸島付近を通って四国沖までのびている。前線上の関東の東に低気圧があつてほとんど停滞。低気圧や前線に向かって、太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入、①の上空寒気の影響も加わり、前線近傍では大気の状態が非常に不安定となり、海上を中心に雷を伴った非常に激しい雨を解析。
- ③ 小笠原近海を熱帯低気圧が北上。
- ④ 台風第11号は南シナ海を西北西進。台風周辺の下層暖湿気の影響で、南西諸島で激しい雨を解析。

東日本太平洋側では4日は、土砂災害に警戒。低い土地の浸水、河川の増水、落雷、竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。北日本では、5～6日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒、落雷、突風、降ひょう、強風や高波に注意。南西諸島では6日にかけて、西～東日本では4日は落雷や突風、降ひょう、短時間強雨に注意。



前線記号の黒塗りはFT24、白抜きはFT48

主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項②の前線上の低気圧は4日朝には不明瞭になり前線は関東の東に進む。このため、前線の影響は小さくなるが、1項①のトラフに伴う寒気が残る中、太平洋高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入し、日中は日射による昇温の影響も加わるため、東日本太平洋側では、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴って非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。4日は、東日本太平洋側では、これまでの大雨により地盤の緩んでいる所があり、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがあるため、土砂災害に警戒。低い土地の浸水、河川の増水、落雷や竜巻などの激しい突風、降ひょうに注意。また、西～東日本でも大気の状態が不安定となる所がある。落雷、突風、降ひょう、短時間強雨に注意。
- ② 台風第11号は、発達しながら南シナ海を西北西進。南西諸島では、引き続き台風周辺の下層暖湿気の影響により大気の状態が不安定となる所があるため、6日にかけて落雷、突風、短時間強雨に注意。
- ③ 中国東北区の500hPa 5700m 付近のトラフに対応する前線を伴った低気圧が、5日にかけてサハリン付近へ進む。低気圧や前線に向かう下層暖湿気の影響で、北日本では大気の状態が不安定となり、激しい雨が降って大雨になる所がある見込み。また、低気圧や前線近傍では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて波が高くなる所がある。5～6日は、北日本では、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒、落雷、突風、降ひょう、強風、高波に注意。
- ④ 1項③の熱帯低気圧は、引き続き北上し、5日には日本の東で不明瞭になる見込み。

3. 数値予報資料解釈上の留意点

総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等]

- ①雨量(06時から24時間)：多い所(100mm以上)はない。
- ②波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。
- ③高潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。